



2月 幼稚園だより

令和5年2月1日
千代田区立番町幼稚園
園長 中村 千絵

心が動くことで、学びが始まる

園長 中村 千絵



(番町幼稚園HP)

<大寒波の日の朝に>

1月の終わりに大寒波が来ました。ビオトープの池は5cmもの厚さで氷が張り、プランターの土には霜柱が立ち、子どもたちは大興奮です。

5歳児うめ組は、ビオトープのメダカを心配し、無事である可能性、どうしたら救えるかについて、友達と話合っています。温度計を持ってきて、あちこちの気温を測り始める子どももいます。(2階テラスの9時30分の気温はマイナス1度だったことを教えてくれました)

4歳児さくら組の子どもたちは、幼稚園中のどこが凍っているかを見て回り、霜柱やツララを発見し、そして、自分たちも氷をつくりたいと言い始めました。「どうしたら氷になる？」と教師が問いかけると、ある子どもが「冷凍庫の氷は四角いから、四角の容器で作った方がいい」と提案しました。

3歳児もも組の子どもたちは、氷に触って冷たさを感じ、落としてみて割れるのを楽しみ、そして、手の中で溶けていく不思議さに驚き、何人もの子どもが私に「氷が小さくなるんだよ!丸くなるんだよ!」と知らせに来ました。



ビオトープに氷が張りました!

<主体的な学びはどこから生まれるのか>

この氷が張るような寒い朝は、教師が意図したものでも用意したものでもありません。「みんなで氷について調べましょう」と言ったわけでもありません。

しかし、子どもたちは主体的に動き、「生き物を大切に思う」「知的好奇心をもつ」「道具を使って調べる」「問いに対して自らの経験から答えを探す」など自ら学ぶ姿をたくさん見せてくれました。なぜ、こんなにも子どもたちは「自ら学ぼうとした」のでしょうか。

それは、心が動いたからなのだと思います。何かに出会い、大きく心が動いたとき、子どもたちの「考えよう」「知りたい」「体験したい」という学びの芽生えが大きく育つのではないのでしょうか。もちろん、この子どもの心に寄り添い共感する教師、子どものやりたいことを支える援助、環境が重要であることは言うまでもありません。

<一人一人が輝くために>

年度末に向かうこの時期は、「幼稚園評価」の時です。保護者アンケートについては、無記名方式にも関わらず、98%の方のご回答をいただきました。保護者アンケートと教職員の自己評価を合わせ、地域の方などのご意見も伺いながら、今年度の番町幼稚園の教育を評価し、来年度の教育課程を編成しています。

職員会議では、改善すべき点とともに、「来年度にも残していきたい番町幼稚園の教育の価値は何か」について、話し合いました。「どんな状況にあっても、一人一人を徹底的に大切にすること」が本園の教育のよさであり、大きな特徴であることが多くの教職員から出されました。そのためには、もっともっと、一人一人が「心を動かす」きっかけとなる環境や援助の工夫が必要になることを感じます。

本園は、3学期には、行事を少なくし、一人一人が自ら学ぶを深める「好きな遊び」の時間をしっかりと保証しています。進級、進学までの2か月、子どもたち一人一人が輝き、学びを深めていけるよう、教育を充実させてまいります。

1月ならではの伝統的な遊び



もも組の作ったお獅子



さくら組の手作りすごろく



凧あげ



うめ組の墨で描いた凧